

第4回宇治市交通バリアフリー推進連絡会の議事概要

日時：平成22年7月9日(金)

14:00~16:00

場所：宇治市議会棟 第3委員会室

<出席者>

【委員長】

大阪大学大学院 新田 保次

【副委員長】

京都文教大学 森 正美

【市民代表】

宇治市身体障害者福祉協議会	羽野 力
精神障害者家族会「茶の実」	桶谷 民子
宇治市連合喜老会	馬場 恒雄
宇治子育てを楽しむ会	迫 きよみ
宇治市社会福祉協議会	曾谷 武
宇治商工会議所	小林 寛明

【公共交通事業者】

西日本旅客鉄道(株)京都支社	奥田 英雄
近畿日本鉄道(株)	平林 英明
京阪電気鉄道(株)	斎藤 康文
京阪宇治バス(株)	松原 真二

【行政機関】

近畿運輸局 京都運輸支局	足立 高広
山城北土木事務所 道路計画室	大黒 澄人(代理)
宇治市 健康福祉部	田中 秀人
宇治市 建設部	三枝 政勝
宇治市 都市整備部	小川 茂

【事務局】

都市整備部交通政策課 後藤 庸太
長谷川 昇治
安代 容明
永池 孝二

(敬称略)

【1. 委員変更の紹介】

司会者が、変更した委員(7名)の紹介。
精神障害者家族会「茶の実」の参加承諾について報告。

【2. 開会あいさつ】

宇治市都市整備部長が、開会のあいさつ。(内容省略)

【3. 前回推進連絡会の内容確認】

事務局が、「第3回推進連絡会の議事概要」(資料-1)に基づき説明。(内容省略)

【4. 昨年度の結果と今年度の予定】

事務局により、「第4回推進連絡会資料」(資料-2)に基づき説明。(内容省略)

○意見交換の概要

市民委員:JR宇治駅から生涯学習センターへの視覚障害者用誘導ブロックについて、なぜわずかな距離でもあるバス停まで伸ばせなかったのか。

事務局:基本構想の策定時には、建物を基準に整備することになっていたため今の形になった。バス停まで整備できるかは今後の課題です。

市民委員:近鉄小倉駅の地下通路に以前のゲリラ豪雨の際、雨水が浸入してきた。
深夜の豪雨対策を教えてほしい。

事務局:近鉄小倉駅地下道について流入した水の対策は、近鉄の排水ポンプにより行っている。また、緊急時の対応は、宇治市の道路管理者と近鉄で協定を結んでおり対応を行うと聞いている。

委員長:目の不自由な方、車イスの方等を含めた深夜の対応を検討してほしい。

事務局:深夜の対応については、関係者に確認し返答します。

市民委員:黄檗の京大の前から北に伸びている道路と、京阪の踏切と交差する所は、事故の懸念がある。目の不自由な方等の通行についても心配です。
自衛隊の前の道を拡幅し歩道を広くしてほしい。

事務局:京都府と宇治市で自衛隊や学校と、拡幅整備の協議を進めている。

市民委員:京阪電車の軌道に近い場所で、多量のゴミが常にある。電車の走行に支障はないのか。

事務局:関係課に確認し返答します。

市民委員:ここは変則に交差しており、地域の人しか知らない交通ルールがある。また、府道で交通事故をよく見かける。

委員長:バリアフリーの基礎には安全があるので、円滑化と同時に安全を確保する必要がある。

交通事故の発生状況のデータ等を事務局で調べて報告してもらおう。

公共交通事業者:駅のバリアフリー化について工事期間中協力していただき、関係者の方々にお礼を申しあげたい。バリアフリー化できていない駅については、引き続き協議を進め、できる限りバリアフリー化したい。

委員長:道路のバリアフリー化で感心しているのは、特定道路の整備が今年度で 100%行うことで進められている。平成 23 年度以降についても話があった。基本構想を作っていないところまでどう広げていくかが課題です。

副委員長:小倉駅など重点整備地区以外も整備されていて素晴らしい。平成 23 年度以降どういう仕組みで進めていくのか整理する必要があると考えている。

委員長:条例までできなくても、マナーアップをできればいいと思う。

【5. ソフト施策】

事務局が、「ソフト施策」(資料-3, 4)に基づき説明。(内容省略)

副委員長が、京都文教大学の取組を説明。(内容省略)

○意見交換の概要

市民委員:歩道にはみ出しているゴミについて、行政の方で指導してほしい。ゴミの回収時に点検してほしい。また、ゴミネットを邪魔にならないように片付けてほしい。

事務局:ゴミ出しの定点が市内で 5500 から 6000 箇所ある。関係課へ、ゴミの件について伝えます。

市民委員:ベビーカーを押すときに苦勞していたが、その時町を変えていく活動をしていたら自分が高齢者になった時も楽な世の中になると思う。その力を結集できたらいいと思う。

委員長:ぜひそういう挑戦をしていただければと思う。数人でも始めてもらったら非常に面白いと思う。

市民委員:平和堂小倉店の前の放置自転車について、ガードマンを配置し声かけをしてもらうことにより撤去台数が非常に少なくなって喜んでいきます。

委員長:改善するいい取り組みだと思います。

事務局:近鉄小倉駅西側の視覚障害者用誘導ブロックの上の放置自転車は目に余るものがあるため、地元や事業者の意見を聞き、即時撤去という形で取組んでいる。

事業者のご苦勞も聞いているので放置自転車がなくなるような街づくりを進めていきたい。

市民委員:市役所の車イス用駐車場に一般の方が停めていることがある。改善する方法があるのではないか。

事務局:駐車マスについては庁内で協議した。車イススペースを合計 6 台設けているが、雨の日、月末等満車になっているのが実情です。他府県の事例を参考に関係課と調整を行い、来年の連絡会でいい報告ができるようにしたい。

行政機関:平成21年12月のバリアフリー教室は観光地で初めて開催しました。その後いただき

た意見は交通消費者行政会議やバリアフリーの会議で報告している。

バス車両についてノンステップバスの導入を平成22年度末までに 30%を目標にしている。

京都府下 1500 台のうち、京都市が 750 台所有しているためノンステップバスの導入は約 50%となっている。

国交省は福祉対応のやさしいバスや車両の開発をするため、平成22年5月末に検討会を立ち上げた。

公共交通の利用が減ってきており、維持再生については大きな課題である。

交通基本法が国交省で検討されており、国交省のホームページでパブリックコメントを求めています。

委員 長:交通基本法が成立すると、移動に困っている人達に対する手当て、権利的なものは前進すると思うが、財源的な問題がある。

ぜひ皆様にはパブリックコメントに意見を寄せていただきたい。

<まとめ>

委員 長:スパイラルワークといって、毎年ここでチェックしながら次の進歩をしていくのがこの連絡会である。

平成23年度以降で、バリアフリー完成目標年次以降、宇治市でどのように進めていくか自主的に考える必要がある。また、重点整備地区以外についても同様である。

身体障がいの方には一定の前進があったが、精神、知的、発達障がいの方への対応も大切で、問題意識を持って取組んでほしい。

学校との取組みについては、施策の結果で評価するのではなく、プロセスを通じた人づくりや、相手への思いやりを理解することも大切である。

今回の連絡会による課題として

視覚障害者用誘導ブロック延長の検討。

深夜の増水などの対応。

歩道の拡幅。

ゴミ問題。

道路の変則交差等に伴う、ローカルルール問題。

事故の状況の調査。

観光客を意識した、ボランティアガイドクラブによるユニークな取組みの継続。

ベビーカーのバリアフリーの取組み。

駐車マスの問題。

について取組んでほしい。